

兵庫県からコバヤシツヤゴモクムシの初記録

森正人

コバヤシツヤゴモクムシ *Trichotichnus*(*Trichotichnus*) *kobayashie* Habu,1957 は、伊豆諸島青ヶ島産の標本で記載された種類で、全国的に記録が大変少ない。亀澤・菅谷 (2023) は千葉県房総半島南部数か所の近年の採集記録を報告するとともに、本種の生息状況について解説した。また、これまでの記録をもとに全国的な分布状況を整理し、これまで不明だった生態情報とそれに伴う分布状況が少し明らかになった。これによると、本種の分布記録は本州では千葉県、東京都 (青ヶ島、八丈島、御蔵島、利島)、神奈川県、静岡県で、それ以西の本州と四国からの記録がなく、九州では長崎県 (本土、男女群島女島)、鹿児島県 (下甕島、屋久島、トカラ列島中之島、宝島)、沖縄県 (沖縄島、与那国島) である。このうち、神奈川県と与那国島の記録については疑問としている。また、本種は沿岸性ないしは海岸性の種類であるが、日本海側からは全く知られていないようである。

た環境は少ない。採集時には本種によく似た同属のヒコサンツヤゴモクムシ *T.(T.)noctuabundus* Habu,1954 と判断したようで、残念ながら採集環境についての記憶がない。

なお、本種とヒコサンツヤゴモクムシとは、♂の交尾器、前胸背の点刻、後角の状況、上翅が短い等の違いで区別される (亀澤・菅谷,2023)。特に♂の交尾器は中央片腹面が窪み、その両側が強く縁どられる顕著な特徴がある (写真2)。

○引用文献

亀澤洋・菅谷和希, 2023. コバヤシツヤゴモクムシの分布についての覚書ならびに房総半島南部における生態断片. さやばねニューシリーズ (50) : 50-53.
森正人, 2016. 兵庫県のゴモクムシ類 (2). きべりはむし 38(2) : 30-37.

(Masato MORI 環境科学大阪 株式会社)

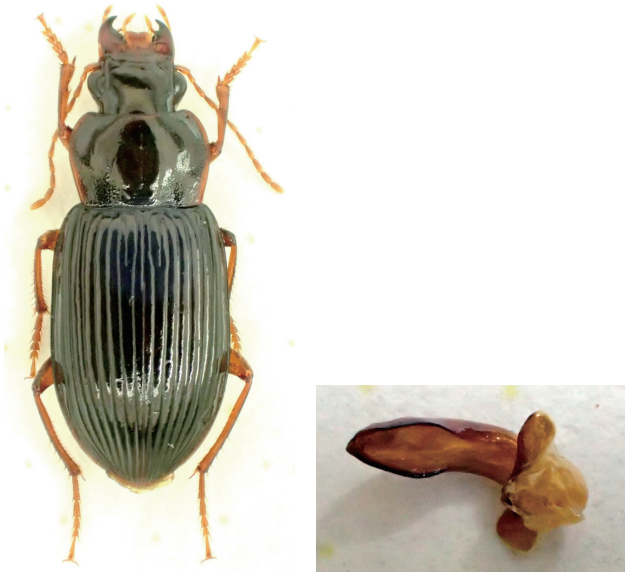


写真1. コバヤシツヤゴモクムシ♂ 写真2. 同種♂交尾器腹面

筆者は2016年にこの属を含むゴモクムシ類について、兵庫県内での記録や標本を整理報告したが、本種の情報確認できなかった。亀澤・菅谷 (2023) の興味深い報文にふれたのを契機に、分布空白域の中央に位置する兵庫県での本種の採集記録について報告しておきたい。

1♂, 兵庫県南あわじ市沼島 (ぬしま), 8-IV-2017, 筆者採集 (写真1)。

沼島は兵庫県最南端の淡路島から、さらに南の沖4.6kmの海上に浮かぶ小さな島で、面積は2.71km²、周囲9.53km、海岸は切り立った断崖が多く、採集に適し